

第3回京丹波町総合計画審議会

会議概要

日 時 平成27年10月16日（金） 午後1時30分～2時35分
場 所 京丹波町役場 議場
出席委員 総合計画審議会委員（欠席：岩田委員、岡本委員、杉浦委員）
事務局（伴田参事、石崎主幹、堀室長、田中係長、正田主査）

1 開会

中西会長：5月27日に第1回の審議会を開催し、その後、審議会1回、各部会2回を経て京丹波町創生戦略中間案を取りまとめた。その後、パブリックコメントを行い、その結果を踏まえて10月7日には、正副部会長会議を開催し、最終案として取りまとめたところである。

本日の審議会では、たくさん意見を出していただき、この案が審議会で認められたら答申していきたい。

特に、この戦略案については、来年度、京丹波町総合計画の見直しを行う中で、計画の主要な柱、また、理念となるものなので、忌憚のない意見を出してほしい。

2 京丹波町人口ビジョンおよび京丹波町創生戦略（最終案）について

中西会長：京丹波町人口ビジョンおよび京丹波町創生戦略案について、今までの経過も含めて事務局から説明いただきたい。

事務局：これまでの経過とパブリックコメント・意見聴取に関する考え方案、創生戦略・人口ビジョン最終案について説明。

中西会長：これまでの経過も含めて、最終案を事務局から説明をいただいた。その中で2点説明してほしい。

一つ目は、2回目の審議会で宗田先生から厳しい意見をいただいた。先生の意見・アドバイスにより修正したところがある。そのことについて説明いただきたい。あと、報道からの意見聴取についてはどうだったかについて教えてほしい。

事務局：宗田アドバイザーは、町内のいろいろな審議会等にも出席いただいている中で、これまでの取り組みも大事だが、どんどん人が減るのは避けられないので、もっと危機感を持って取り組んでほしいという意見だった。皆さんに分かってほしいということで発言された意見だった。基本的な理念など（「自給自足的」というところ）は、十分理解いただいているし、特に、本日は急遽欠席となったが、2ページのいわゆる自給自足というところについて、循環させていくためには、町内において外から物を買うことでお金が流出していることを改めていかないとはいけないということで、それをここでは地域内で循環・流通するという取り組みを進めるということでこのように表現した。特に、先生が言われたのは、消費とい

う観点だけではなくて、食料とかサービスの提供といったところも町内でできるような形で、観光も含めてと言われていた。そういった中で先生からご意見をいただいているので、説明をさせていただいた。

2点目のメディアの関係だが、他紙にも声かけは行った。しかし、すでに京丹波町の取り組みとして京丹波町総合計画審議会で議論をしている。オブザーバー的に意見をいただきたいと依頼したが、当初から審議に加わっていないので、途中で意見するのは避けたいということだった。

中西会長：宗田先生のアドバイスを受けて作ったということ、報道機関に対してもこちらからは働きかけはしているということを押さえたかったので確認した。

それでは、今の説明についてご意見があればお願いしたい。

中西会長：表紙の絵について、前回の審議会までは出ていなかったなので、説明願いたい。

事務局：2年前に実施した庁舎内のワーキング会議で、食実幸健と食の郷京丹波というふうなひとつのビジョン的なものを作った。その債にイメージ図として作成したもの。食に偏ったものになるかもしれないが、京丹波町の理念に合うのではないかと提案した。写真等も検討したが、こういうイメージのほうがよいのではないかと考えた。これは、小さな拠点というか、地域内で物が循環していくイメージを書いている。学校や物販などをイメージしている。特に、イメージ図では、地域で採れた物を物々交換的にやりとりされている。そういう意味でも合うのではないかと考えた。

中西会長：付け加えると、表紙には京丹波町創生戦略案としかなかったが、せっかくの理念なので、表紙に記載することとした。

5ページの理念の議論があったところだが、このあたりはどうか。みんなで考えていけないといけないのではないかとということで作成している。

正副部会長会議でも、物の自給自足という風にイメージしてしまうので、ここで言っているのはそうではないと説明してある。

先生のアドバイスにもあったように、将来に循環させてまちを作るという考え方である。

事務局：今、配付している人口ビジョンがあって、そこで目標人口（戦略人口）ということで、2060年には趨勢人口といわれるのが8700人という数字。それを戦略として打っていくことで、1万人を維持していくという人口ビジョンにもとづく戦略ということ。これが、毎年度見直しや追加修正をしていく流れの中では、今までの右肩上がりの計画ではなく、実効性を高めていくということで、人口自体が右肩下がりになっている現実を踏まえて、先日の宗田先生の話にもあったように、厳しい時代の中で、今のサービスを維持していくか、また、豊かさを保っていくのかというのが戦略。次の総合計画の中心的な柱ということで整理をいただいている。そういったところで、今回お世話になったということでご

理解いただければと思う。会長から冒頭に話があったが、次の総合計画についても、またこういった審議会で意見をいただこうと考えている。最終案では、今まで皆さんからいただいた意見については、修正等加えさせていただいた。さらに、今日を踏まえて修正させていただくので、ご意見をいただきたい。

中西会長：パブリックコメントにあるマツタケの関係はどうか。ご意見をいただきたい。

委員：先日、テレビでも長野県のほうでの取り組みを放送していたが、やはり天然林のマツからマツタケを発生させていく方法だった。京都では、京都方式という形で取り組まれていたが、なかなか成果が出ていない状況。この書き方でよいと思う。町としては、新たなマツタケ山の造成はかなり手がけていくことが大事ということになっているので、あえて人工栽培というのは難しい。天然林のマツを守って行って新たなマツ林を作っていくという方針で取り組んでいくという方針をとるべき。

長野県では、マツの根を切って胞子をまいている。そこからマツタケが発生しているという。京都府でも取り組んでいるが、なかなか胞子をマツの根に活着させるのが難しい状況。それなら、今のマツ林の手入れをして、成長させるほうが、成果が出ると思っている。実際にマツタケが出ていないマツ林を手入れすると、10年も経たずにマツタケが出ている。やはり人工栽培は難しいが、天然のマツを守っていくのが良いと思うので、こういう書き方でよいと思う。

委員：この案の作成時期が京都縦貫自動車道の開通以前から進めれているからだと思うが、その時点では、縦貫道開通が京丹波にとってマイナス要因にしかないと危惧を持っていたが、現状の縦貫道の効果は、決してマイナスだけではない。逆に入り込みは増えているのではないかと感じている。

その中で、10ページの食実幸健のところ、京都縦貫自動車道の開通による立ち寄り客の減少による売り上げ減少といった負の連鎖を解消する仕組みづくりとある。これは、現状を見るかぎり、今は短期的な状況であるので確かなことをいえないかもしれないが、プラスに働いているのではないかと思うので、この現状分析をどうしているのか聞きたい。

事務局：今、委員から発言があったように、これは、開通までに作っていた文章なので、現状の分析は把握し切れていない部分もある。新聞報道にあるような、例えば「和」なら少し減少しているとか、「さらびき」は現状維持かプラスという効果、「味夢の里」であれば連日すごい入り込みというような把握をしている程度。プラスの記載の仕方というところを少し考えさせていただきたい。これをどういう風に書くのが効果的かということもあるが、少し、現状の分析の中で、こういう予想をしていたということなので、少し、修正をしたいと考えている。

中西会長：26年度の現状なのか。

事務局：平成27年度からの計画なので、平成26年度で数値目標は計算している。

中西会長：総合計画の中で時点修正していくので良いかもしれない。

では、今後、今出た意見を踏まえ、若干修正して正副会長にまかせていただいて事務局と調整させていただくことで了解いただきたい。若干、文言を修正させていただく。その結果については、答申前に皆さんにへお配りさせていただき、その後に答申させていただく。

その方向で賛同いただいたということで進めてよろしいか。

※異議なし

3 今後のスケジュールについて

中西会長：今後のスケジュールについて事務局より説明願いたい。

事務局：答申案については、会長から指示がありましたとおり、修正を正副会長で確認いただいた後に送付させていただく。

第一回の審議会の際に2点諮問されている。ひとつは創生戦略、もうひとつは総合計画。今回の答申は、第1次の答申となる。日程は会長・副会長と調整させていただいて答申させていただきたいと考えている。

答申の後には、いずれかのタイミングで策定ということになる。その時期については、できれば11月中でと考えている。

次第にある次回審議会の予定については、次期総合計画策定に向けて、年明け以降、年度内にお世話になりたい。2月ごろを考えている。次の総合計画の策定に向けた意見をたまわりたい。策定の方針について審議いただきたいと考えている。

ここには挙げていないが、本日、資料の中で部会や正副の部会長会議の報告書を資料として配っている。その中では、委員の名前を書いているものもあるが、全体会については、名前の標記はしていない。こちらは公開している。部会や正副部会長会議については、公開していないことを報告する。

中西会長：今、確認いただいたように、審議会の答申については、副会長および事務局と調整して行う。そして11月中には策定となる予定。また、新たな総合計画の審議に入るということで進めさせていただきたい。

本日配付した資料で、さらにおかしいこと、直せばよいと思うところがあれば、遠慮なく事務局に言ってほしい。特に、さきほど委員から出ていたようなことがあるかもしれないので、より良いものとするために出してほしいと思う。

4 閉会

山本副会長：皆さん、今日は忙しい中参加いただきありがとうございます。私もこのまちなのんびりできればといいなと思って引っ越してきた。任期終了まで続けたいという思いはある。いいまち、まちづくりをしたいと思うので、今後ともよろしく願います。

事務局：ありがとうございます。ここで、伴田参事からお礼の言葉を申し上げます。

伴田参事：本日は副町長が出席予定だったが、他の公務で出席できなかったので、私のほうからお礼の言葉を述べさせていただく。本日、第3回の総合計画審議会ということで慎重に審議いただいて、人口ビジョンと創生戦略の最終案をとりまとめていただいた。

さきほど、事務局から申し上げたが、創生戦略については、人口減少、東京一極集中への対応ということがもとの目的。昨年11月にまち・ひと・しごと創生法が成立した。地方については、今年度中に人口ビジョン、5年間の創生戦略を策定するという事になったので、それに基づいて審議いただいた。

これまで部会を含めて熱心に審議いただいて、その中では、図書館の設置、文化施設の充実などを出していただいた。また、空き家の問題や集落の自治など具体的な意見をいただいた。そうした中で、本町として身の丈にあったというか、数値目標を定めないといけないものなので、より達成可能な計画ということで戦略案を検討いただいた。

特にその中で、人口ビジョンだが、大変厳しい現実であるということ。2040年で10,000人。2060年には8,100人程度という目標を掲げたわけだが、その人口を維持することについては、出生率、現在1.4というものを2.07に上げる必要がある、社会増減についてもプラスにする必要がある。それを前提としてこういった人口目標を設定し、そのための戦略であるが、実態としては、宗田先生の指摘にもあったが、非常に厳しいものだと思う。

そうしたことで、具体的に答申を受けて策定するわけだが、戦略を実行に移していくことが重要になる。委員の皆様には、今後第2次総合計画についてもお世話になるわけで、さらにご指導ご鞭撻をいただき、よりよいまちづくりができるようお願いしたい。本日まで熱心にご審議いただいたことについてお礼申し上げます。引き続き審議をよろしく願います。